

N39b **GX339-4 の多波長観測 (I)**

根来 均、Brad Rubin (理研)、久保田あや (東大理)、Philippe Durouchoux、Stephane Corbel、Alice Courvoisier (SACLAY/CEA)、Michael Nowak (JILA/Colorado 大)、Joern Wilms (IAA-Tuebingen)、Robert Fender (Amsterdam 大)、Raj Jain、Charles Bailyn (Yale 大) 他

ブラックホール候補星は、日から年のタイムスケールでロー/ハード・ステート、ハイ/ソフト・ステートなどと呼ばれる、観測される性質が全く異なる状態を示す。その状態の変化は、質量降着量に依存していると思われるが、同じフラックスレベルにも関わらず異なる状態が観測される事も多々あり、何が状態遷移の引金となっているのか分かっていない。

上記の問題は、これまで限られたエネルギーバンドで観測していたためであり、実際の質量降着量は多波長で観測を行わないと見積もれるものではない。また、幾つかのブラックホール候補星で観測されるジェットも、どのような状態の時に発生するのか分かっていない。そこで、特に様々な状態を示す GX339-4 を電波、可視、X線、ガンマ線による同時観測キャンペーンが行われている。その内容とこれまでの結果を今回報告する。

「あすか」による観測は、これまでに3月3-4日と4月2日の二度行われており、強度はそれぞれ20 mCrabと13 mCrabで、ともにハードステートであった。また、8月の17日にも3度目の観測が行われる予定で、今回はこれら3度の観測結果と多波長観測の結果を報告できる予定である。